

令和 7 年度抜歯の原因調査概要及び結果

調査概要

実施主体 宮崎県（健康増進課）
 調査対象 宮崎県内の全ての歯科医療機関 480 施設
 調査方法 郵送法によるアンケート調査
 調査期間 R 7 年 11 月 10 日～11 月 23 日の 2 週間
 調査項目 抜歯者の性別、年齢、居住市町村、現在歯数、抜歯部位、抜歯原因※、抜歯した歯の修復(治療)の状況、破折原因、義歯の使用状況、鉤歯等の状況、歯髓の状況、喫煙状況。

※抜歯の主な原因：C4（深いむし歯）、根面 C（根元のむし歯）、P（歯周病）、Per（根尖性歯周炎）、破折、矯正、埋伏歯、その他

結果

回答率 63.3%（480 施設中 304 施設回答（うち 39 施設は期間中「抜歯なし」で回答））
 総抜歯本数は、2,533 本。うち調査票への記入が不十分な症例と乳歯・過剰歯・県外在住者を除いた 2,483 本を分析の対象とした。

抜歯原因（智歯 457 本・原因を複数記入した 27 本を除く）について

- ・ 抜歯原因は、むし歯（C4、根面 C、Per）57.3%、歯周病 25.0%、破折 14.5%、矯正 2.7%、その他 0.6%とむし歯の割合が最も高い結果となった。
- ・ 歯周病による抜歯は、20 歳代までは、0%であるが、30 歳代から徐々に増加し、80 歳代以降では 29.2%と最も高い結果となった。

